

1991年1月16日

オーストラリア・ニュージーランド金環観測

編集部

☆ 日食の概況

今年最初の日食は、サロス131 に属する金環日食でした。1月16日、オーストラリアの西海上で始まる金環帯は、西オーストラリア州のバース付近に上陸します。その後、一旦グレートオーストラリア湾に抜け、タスマニア島の北半分を通過、タスマン海に出ます。そしてニュージーランドを南北に分けるクック海峡を通過、西経173度付近で子午線中心食になります。最後は南太平洋を北上し、西経130度付近の赤道上で終わります。日付変更線を越えてからの日付は、1月15日です。

最大継続時間は、ニュージーランドの東海上で約7分53秒になります。

☆ ツアーの状況

7月に大きな皆既食をひかえているせいで、ほとんど遠征計画はないのでは……と思われたのですが、昨今の日食ブームの恐るべき勢いで、以下に述べるようないくつかのツアーが計画されました。(順不同)

(1) オーストラリア金環日食と南天の星空観測の旅

主催：日本通運(株) 大手町支店 (日本プラネタリウムラボラトリー企画)

観測地：西オーストラリア州、ウエーブロック

定員：25名(328,000円)

(2) 金環日食と憧れの南天の星座たちを訪ねる

主催：近畿日本ツーリスト 渋谷海外旅行支店 (スカイウォッチャー企画)

観測地：西オーストラリア州、ロットネスト島

定員：20名(298,000円)

(3) タスマニア金環日食ツアー

主催：日本通運(株) 虎ノ門旅行支店 (星の手帖企画)

観測地：タスマニア島、ロンセストン

(348,000円～10名以上の場合)

(4) タスマニア金環日食と南天の星座の旅

主催：近畿日本ツーリスト 横浜海外旅行支店

観測地：タスマニア島、ロンセストン

定員：30名(385,000円)

(5) ニュージーランド金環食とマゼラン星雲8日間

主 催：アルパインツアーサービス㈱ （ネイチャリングクラブデスク企画）

観測地：ニュージーランド南島、ネルソン

（598,000円～10名以上の場合）

☆ 観測の状況

=バース近郊=

(1) のツアーは18名で催行されました。観測地のウエーブロックは、州都バースから東に約300km の町です。当日の天候は朝から曇りでした。第2接触の3～4分前に太陽が雲から顔を出し、第2接触は無事に観測できましたが、金環中に再び雲の中に入り、第3接触は観測できませんでした。

(2) のツアーは20名で催行されました。観測地のロットネスト島は、バースの沖合いにあるリゾート島です。当日、東の地平線上3度くらいまで雲があり、欠けたままオーストラリア大陸から昇ってくる太陽は見られませんでした。その後は雲に邪魔されることもなく、金環日食を見ることができました。

この二つのツアーの他にも、家族で、または友人数人でグループを作ってバース近辺に出かけた人々がいます（本文参照）。結局、この近くでは約50名の日本人が、約5分40秒の金環日食を見たこととなります。

=タスマニア島=

(3) のツアーは7名で、また、村山定男先生参加の(4) のツアーは18名で催行されました。両方のツアー共、ホバートの北にあるタスマニア第2の都市、ロンセストンのほぼ同じ地点で観測したようです。天候は快晴で、6分40秒に近い金環食を堪能できました。

=ニュージーランド=

今回の日食で一番条件のよいと思われたニュージーランドでしたが、(5) のツアーは人数が集まらず、成立しませんでした。やはり、最近身近になったオーストラリアに比べて、旅行費用の高さが原因でしょうか。数名の個人旅行観測者がいただけでした。（本文参照）

天候は南島では申し分なく、北島でも雲間から7分40秒もの金環食が観測されました。

結局、今回の日食で遠征したのは約80名ということになるでしょう。7月の皆既食を控えて、この人数を少ないと見るか多いと見るか、意見が分かれるところだと思います。いずれにしろ、最近の日食観測旅行は、出来合いのツアーに乗らず、個人または自主グループで出かける人が増えてきたようです。7月のハワイ・メキシコ日食についても同様の傾向があります。その分、当情報センターでは把握しにくくなってきたわけですが、旅行形態としては望ましい方向あるのかもしれない。